

一般 ぐらしに寄り添う子育て支援を

松永 晴香（みどり21）



子育てに関わる行政手続が非常に煩雑で、負担が大きいつと感じてきた。他自治体では、申請のオンライン化や情報を一元化してワンストップで完了できる仕組みが進んでいる。菊川市でもそのような取組を進めるべきと考え質問した。

● 子育てに関する手続で現状オンライン申請可能な手続があるか。

▲ 本市では、マイナンバーカードを利用した申請として、妊娠届、児童手当・児童扶養手当の受給、保育施設の利用など、また、市独自の電子申請として、リフレッシュ・一時保育申請、母子健康手帳の交付や妊活サポートなどの事前相談予約、各種教室への参加申込みなどについてオンライン上の手続を行っている。今後も負担軽減に向けたオンライン化に対応していく。

● 小学校から中学校へと持ち上げる書類や、毎年同じ内容の書類を記入することが多いのが現状である。こうした情報を、簡素化することは難しいのか伺う。

▲ 児童・生徒個票については、前年度のものを修正する方法に変更し、保護者の負担軽減を図っている。さらに、家庭から学校までの地図については、アプリやカーナビの活用により地図が不要であることを確認したため、来年度の児童・生徒個票から削除できる見通しである。今後は、校長代表との協議を通じて地図以外にも改善可能な項目がないか、引き続き検討を進めていく。

他に「男女共同参画、育児もキャリアもあきらめない社会」について質問しました。



一般 難聴者の補聴器購入に助成を

奥野 寿夫（日本共産党）



加齢性難聴の対策として、啓発や受診の促進、補聴器購入への助成などについて質問しました。

● 予防講座や特定健診に聴こえの項目が入っているか。中等・軽度の難聴についての啓発や早期発見について、どのような取組がされているか。

▲ 特定健診の検査項目に聴力は入っていない。介護予防教室などで、難聴が認知症のリスク因子の一つであることなどを説明し、補聴器の活用や耳鼻咽喉科への早期受診を促している。まずは、市民の皆さまが自分事として意識し、難聴の早期発見や早期対応につながるよう一層の周知・啓発に取り組む。

● 静岡県内では過半数の自治体が、中等・軽度の難聴者の補聴器購入に助成をしている。補聴器購入に対して、市独自の補助・支援事業を実施する考えはないか。

▲ 加齢性難聴は生活の質や認知機能の低下につながる要因の一つであり、早期から対応することで生活の

質の維持や認知症予防に寄与するものと考えている。補聴器購入費助成については、本市でも市独自の補助・支援事業の導入に向けた検討を既に開始している。現在は、他市町の導入実績などを調査・研究するとともに、市内耳鼻科医にも補聴器利用に関するご意見を伺いながら制度設計に向けた具体的な検討を進めている。また、加齢性難聴への支援制度を創設するよう、毎年、国へ働きかけている。

他に「被爆・終戦八十年にあたり、菊川市平和都市宣言にもとづく平和行政・平和教育の推進」について質問しました。

